

日和田地区の紹介



日和田という集落

網野町で一番世帯数の少ないこの集落は「網野町字日和田」という大字名で登記されています。元々世帯数の少ない集落（古くは 45 戸が最盛期）であり、自給自足経済の終焉と昭和 38 年豪雪の後、昭和 41 年に人々は 1 世帯を残して住み慣れた村を後にしました。

集落に留まった一人の女性

その後 50 年近い年月が去った今、先ほど述べただ一人の女性が自身の居宅で生活しています。御年 94 歳（当時 47 歳）になられています。94 歳ですがとてもそのお年には見えません。本当に元気です。お家は網野町岡田区より久美浜町関地区に向かう山間道(府道)の途中より地道を山中に 200 メートルほど歩いてやっとたどり着く場所です。いやっ驚きました！ まさに仙人の境地かなと。今回、その 94 歳の女性の話を書きました。

日和田の昔

女性は峰山町から嫁がれたと云います。当時は村にも 30 戸足らずの世帯があり、毎年 8 月 25 日の祭りには親類などが子ども連れで来られて賑わい、当時の交通事情でしたので、ほとんどが泊まりで来られていたと云うことです。世帯人口が少ないため神輿などの山車は出ず、ほら貝を鳴らし笛を吹きながら各家を巡行したとの話です。

集落を偲ぶ

昭和 41 年に離村するまで住んでいた 50 代の方に聞きました。多くの謎を残すこの日和田の集落を思い出しながら、語ったことは。御先祖たちはどうしてこのような山間の奥地に村を造ったのだろう

か？ 生活はどうしていたのだろう？ 山が村民の生活の糧だったと云います。

子供らの遊びはもっぱら自然と一緒にあり、地形問題でボール遊びは難しく、ソフトボールなどは地区内では絶対出来なかったと云います。

小学校（日和田分校）のこと

集落には小学校（分校）があり、廃校の後、地区の公会堂となりました。高学年になると本校の木津小学校に通学したと言います。冬は寄宿舎に泊まり込み、そこで友達と見るテレビ（当時の“ひょっこりひょうたん島” NHK）が唯一の楽しみだったと懐かしんでいました。

ヤマユリ牧場に入植した有志たち

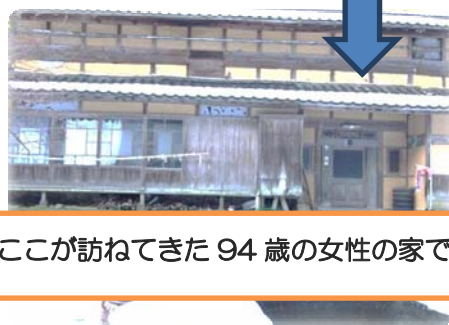
そんな一人の女性の住む日和田地区に昭和 50 年代に、当時の「網野町農業協同組合」の営農戦略の事業として集落の外れを開拓造成し、丹後域に酪農を推進したのです。その時に 7 人(世帯)ほどの有志をここに集めました。しかしながら昨今の酪農における厳しい状況の中で転業を余儀なくされ、現在は 2 世帯になってしまいました。



ヤマユリ牧場の入居者宅



当時の通学路であった峠から
浜詰方面を眺める



遠い過去にここに 40 戸余りの家々があり、夏祭りには多くの人で賑わったと云います。